

10月17日 第301回 「内部被曝を調べる」

話題提供 乳歯保存ネットワーク

非営利未来型KK「はは」

岐阜環境医学研究所々長 松井英介さん (20名)

最初に、「太陽が落ちた日」を制作したドメーニグ・アヤさんからのメッセージの紹介がありました。「太陽が落ちた日」をなぜ作ったかを語るアヤさんの「日本人の中にある沈黙」という言葉が印象的でした。原爆投下のあと、アメリカ軍が医師やメディアに強いた沈黙。それに抗した医師と看護師の姿。各映画祭で感銘を与えたこのドキュメンタリー映画は日本では4回上映されました。松井さんは、今後もあちこちで上映してほしいと話されました。

さて、今回の話題は「内部被曝」についてです。原発事故によって放出された人工放射性物質の一つ、ストロンチウム90 (Sr-90) は、骨や歯に蓄積され、何十年もの間、身体から出ていかず、白血病や免疫不全を起こし、様々な病気の原因となります。

2013年に国連人権理事会が選任した「健康に対する権利」に関する特別報告者アランド・グローバー氏が、福島原発事故後の人権状況に関する事実調査ミッションの報告書を国連に提出し、日本政府に対する詳細な勧告で、内部被曝検査の重要性を説きました。

放射能汚染は胎児と成人では異なります。成人に対して胎児は約4倍も高いのです。半世紀以上前、アメリカのお母さんや研究者たちは、乳歯中のSr-90の増加につれて、子どもの癌や白血病が増えていることを明らかにし、大気圏内核実験を止めさせました。

1950年代、日本でもSr-90が、日本各地でどれだけ降り注いだかが測定されました。同時に乳歯のSr-90も調べられ、乳児の栄養の違い(母乳、人口、混合)によって、乳歯のSr-90の蓄積量に差があることもあきらかにされました。欧米諸国でも、同様の研究結果が得られています。

スイス・バーゼル州立研究所では、1950年に乳歯に含まれるSr-90の測定が始められ、すでに66年間、途切れる事なく測定が続けられてきました。

3. 11東電福島原発大惨事後、東北大学の研究者は動物の乳歯や骨などに蓄積する人工放射性物質について調べ、特に若い動物の歯にSr-90が顕著に蓄積していることを明らかにしました。その値は高濃度汚染地ほど高くなっています。同じことが人にも起こっている可能性があります。ところが、そのSr-90の測定を、日本政府も「福島県県民健康調査検討委員会」も行っていない。

子どもたちの乳歯の測定や結果の解析、子どもたちの健康を守る事業には、多くの資金と長期間継続した活動が必要です。それをどうしてもやらなければならないと、松井さんたちは、乳歯保存ネットワーク、そして非営利未来型の株式会社「はは」を設立しました。測定器購入の資金が集まり来春活動をスタートできることとなったと報告されました。現在、若いお母さんたちに、子どもたちの抜けた歯を「記録カード」と一緒に保存することを呼びかけています。

松井さんの話を聞いて、子ども連れの参加者は「被曝について知りたがっているママは多い。たくさんの人に知ってほしい」「学校給食について考える会」からの参加者は「食べたら内部被曝・・・というのは避けたい。どんな食材をどんな観点で選んだらいいのか？まずは今日の話を知らせたい」と感想を述べました。松井さんは、「Sr. 90 についての調査は不十分で、状況は深刻です。こわがらないで調べる。それぞれでデータを持つ。そうするとはっきりしてくることがある。専門家にも働きかけ、こういう話し合いをあちこちで重ねていくことが大切。お母さんたちの力で国に、子どもたちを被曝させない！という政策を作らせ実動させることが大切です。」と話されました。

沖縄出身の参加者からは、最近、自衛隊の配備や米軍の軍事基地化がすすむ宮古島、石垣島の状況について報告がありました。